



株式会社リンクスポーツエンターテインメント 2015年12月期 決算概要説明資料



1.決算報告

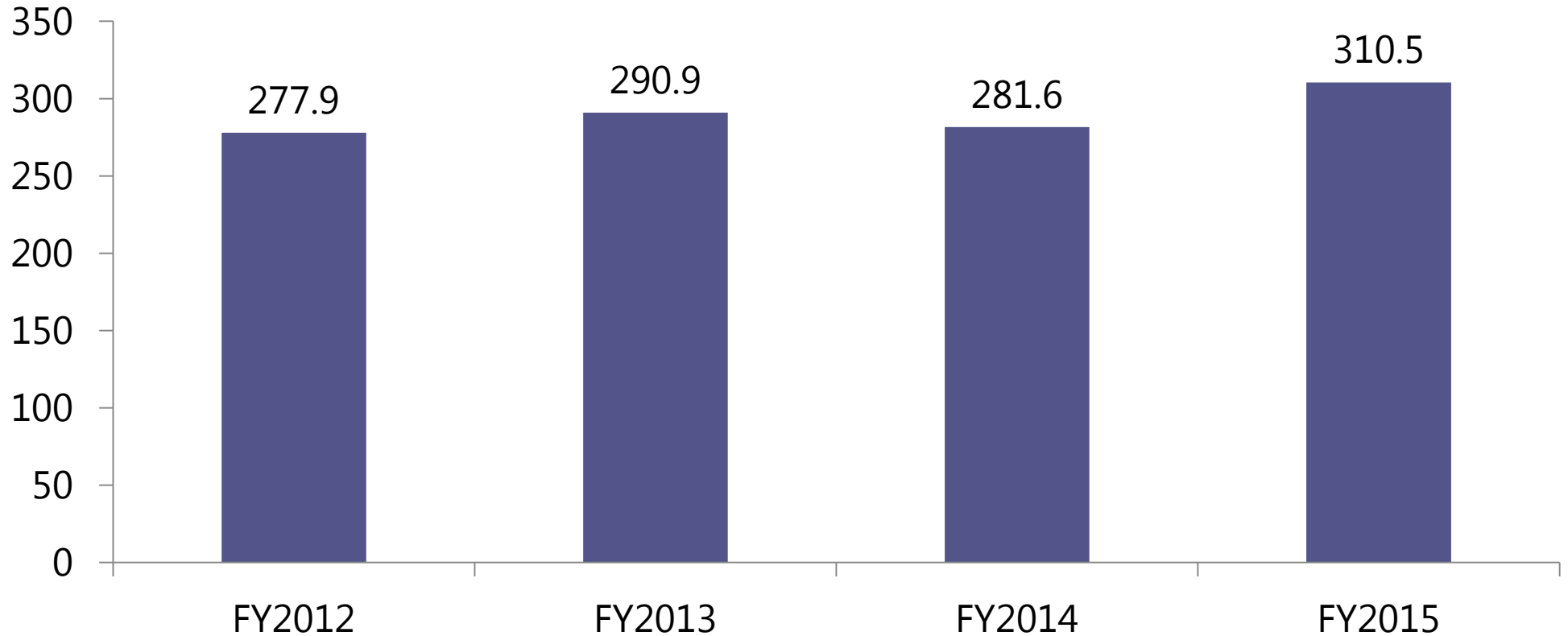
2.今後の戦略と方針

3.お知らせ

単位（百万円）	FY2014実績	FY2015実績	前年比
売上高	544.0	599.9	+10.3%
営業利益	14.1	3.9	-72.3%
経常利益	15.8	5.7	-63.9%
当期純利益	15.8	3.2	-79.7%

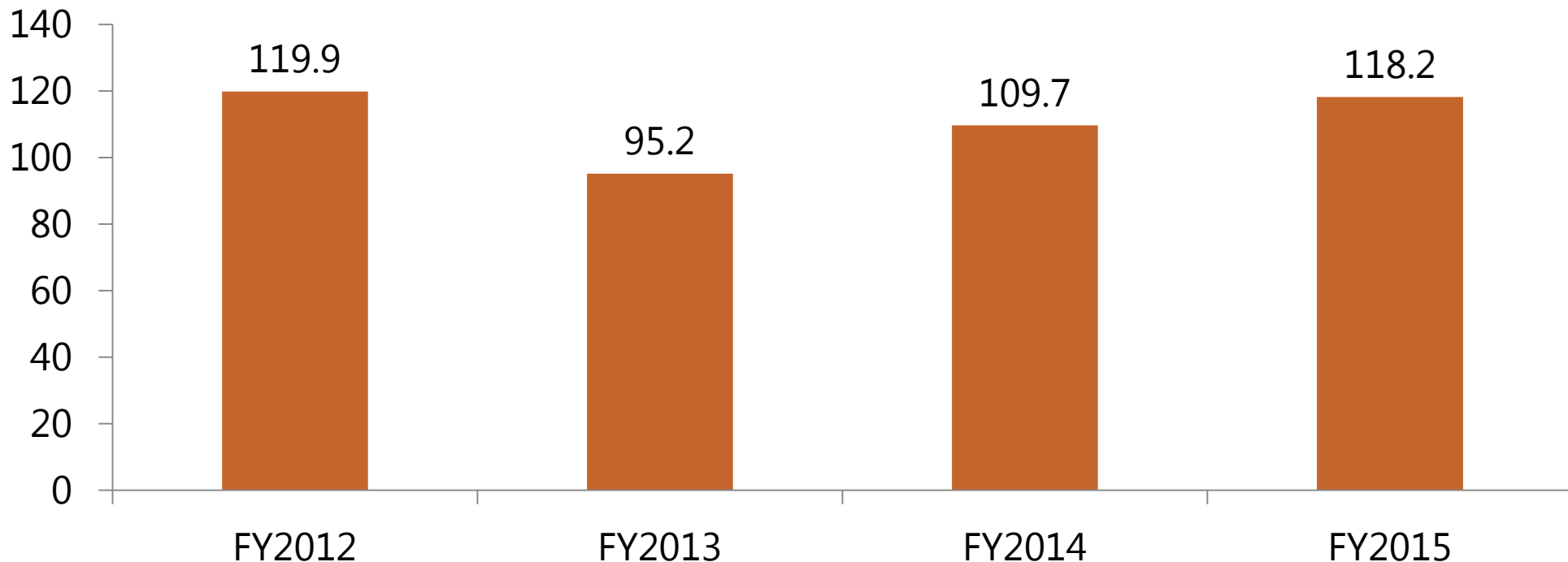
- 売上高は過去最高となったが、営業利益は人件費およびプロモーション費、演出費、運営費などの増加による支出増加により昨年に比べ減少。
- 3期連続黒字達成！

単位：百万円



- 戦績の好調および観客動員数の増加に伴い、オフィシャルスポンサーおよびゲームスポンサーなどが順調に販売できたため

単位：百万円

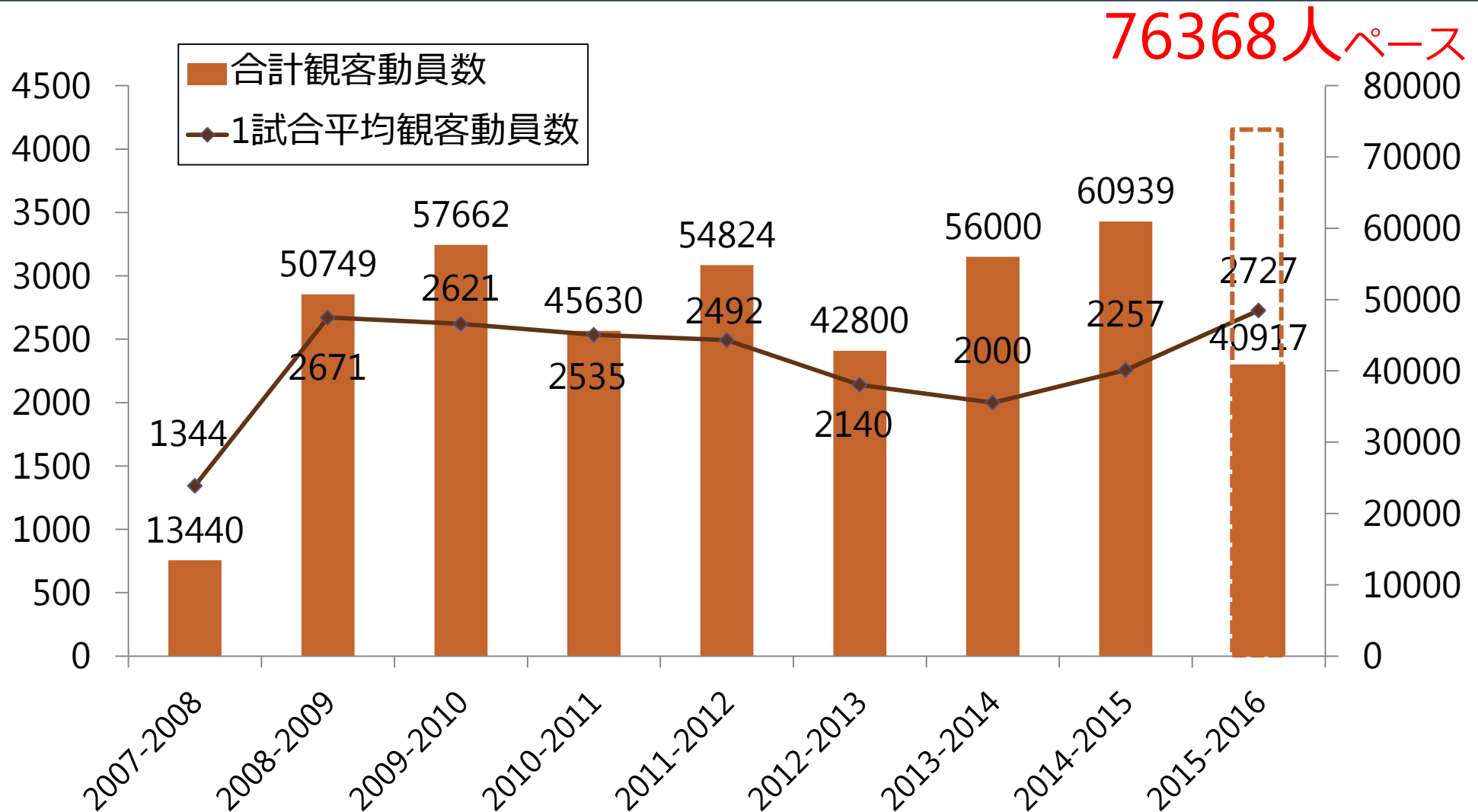


	FY2012	FY2013	FY2014	FY2015
ホームゲーム運営数	30+ (11)	20+ (20)	32+ (8)	29

※ FY2014まではTGI・D-RISE (JBL2・NBDL) も運営、カッコ内はD-RISEホームゲーム運営数

※ 上記の他、FY2012は女子日本代表国際親善試合、FY2013はJBL DREAM GAMESも運営しております

- 観客動員数の増加を背景に増収

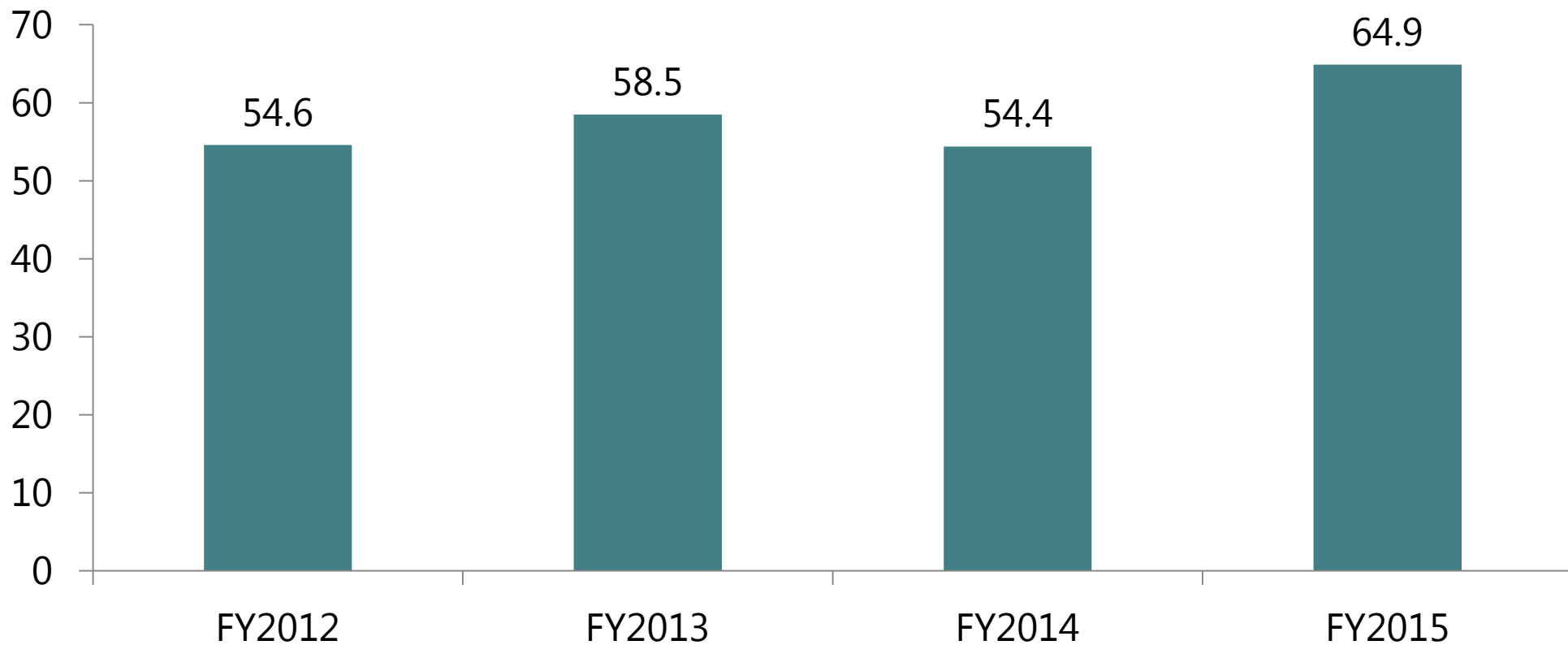


※ ホームゲーム開催試合数
 2007-2008シーズン/10試合、2008-2009シーズン/19試合、2009-2010シーズン/22試合、2010-2011シーズン/18試合、
 2011-2012シーズン/22試合、2012-2013シーズン/20試合、2013-2014シーズン/28試合、2014-2015シーズン/27試合、
 2015-2016シーズン/28試合

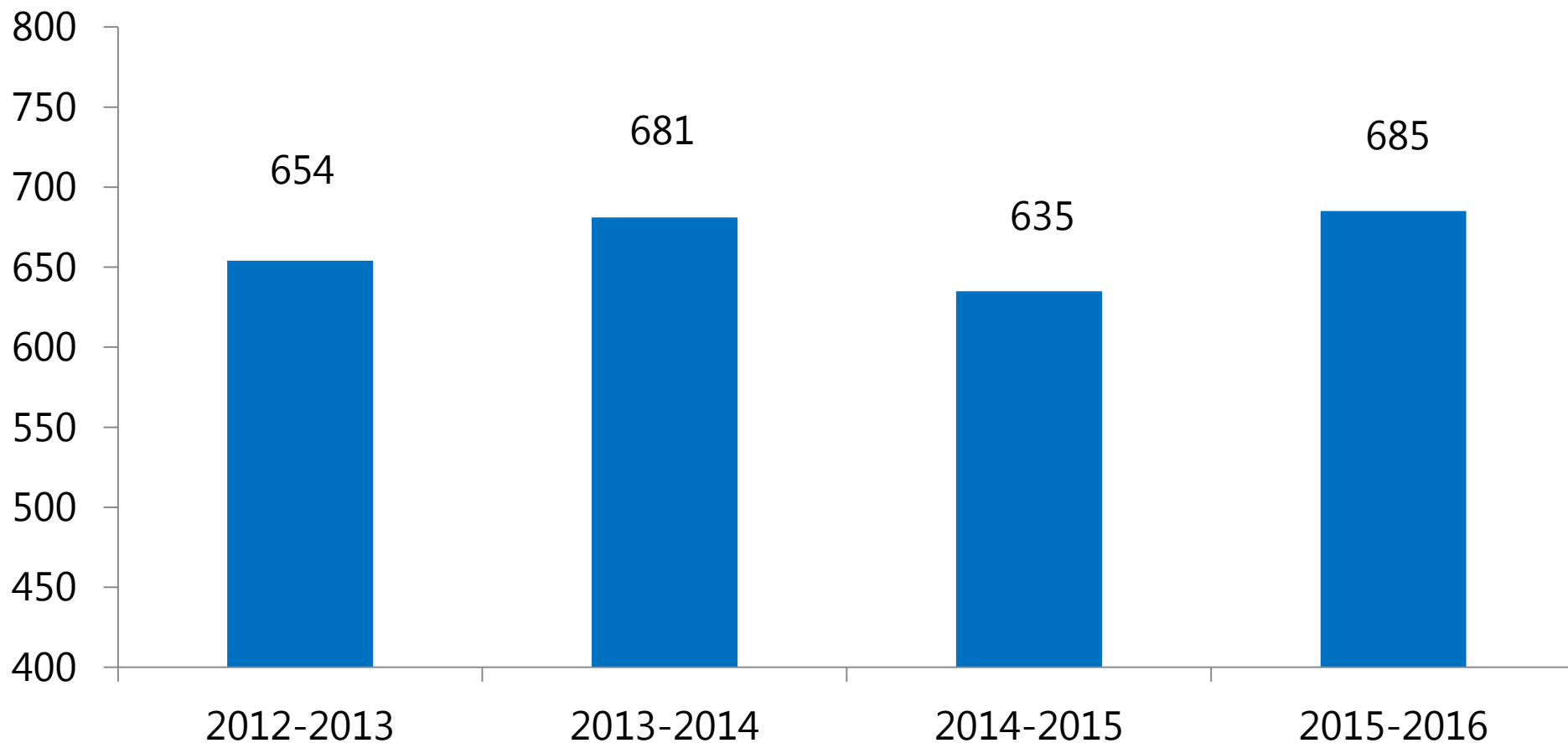
参考：リンク栃木ブレックスホームゲーム観客動員数



単位：百万円

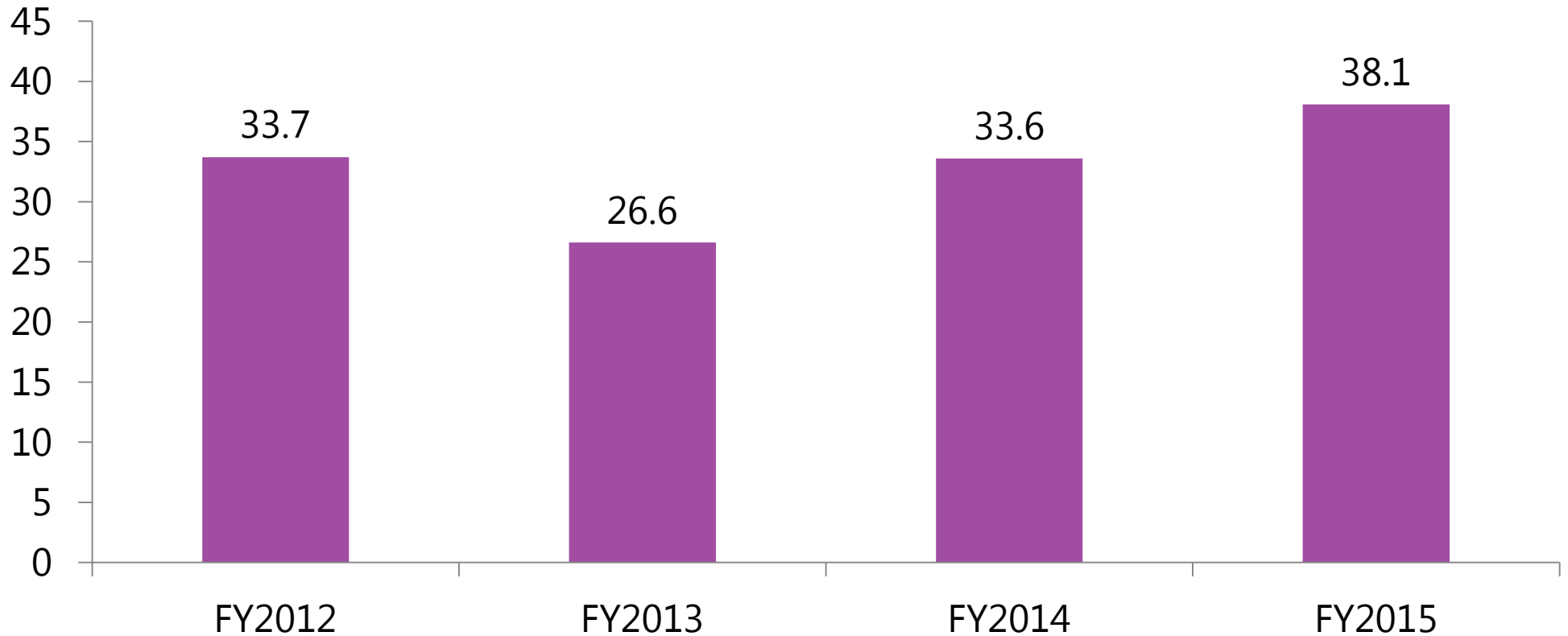


- スクール入会者数が増加
- 単発イベントの開催による増収



数字は3月末時点
2015-2016シーズンのみ2/15時点

単位：百万円



- 会場販売の売り上げ（1試合あたり）が増加
- 新商品を多数投入し、ヒットした
- メーカーとのコラボ商品がヒットした

セグメント別

<p>肖像 (選手の出演等)</p>	<p>選手稼動日の減少（日本代表活動等による）により、受注件数、売上が減少</p> <p>売上高： 25.1百万円 前年同期比： -17.5%</p>
<p>ファンクラブ</p>	<p>商品設計のリニューアルをして、ファンクラブ入会者数大幅増</p> <p>売上高： 13.6百万円 前年同期比： +30.4%</p>
<p>Tシャツ製造</p>	<p>受注件数の増加および自社制作案件の増加</p> <p>売上高： 12.6百万円 前年同期比： +63.0%</p>

1.決算報告

2.今後の戦略と方針

3.お知らせ

2015-2016シーズン 現在2位

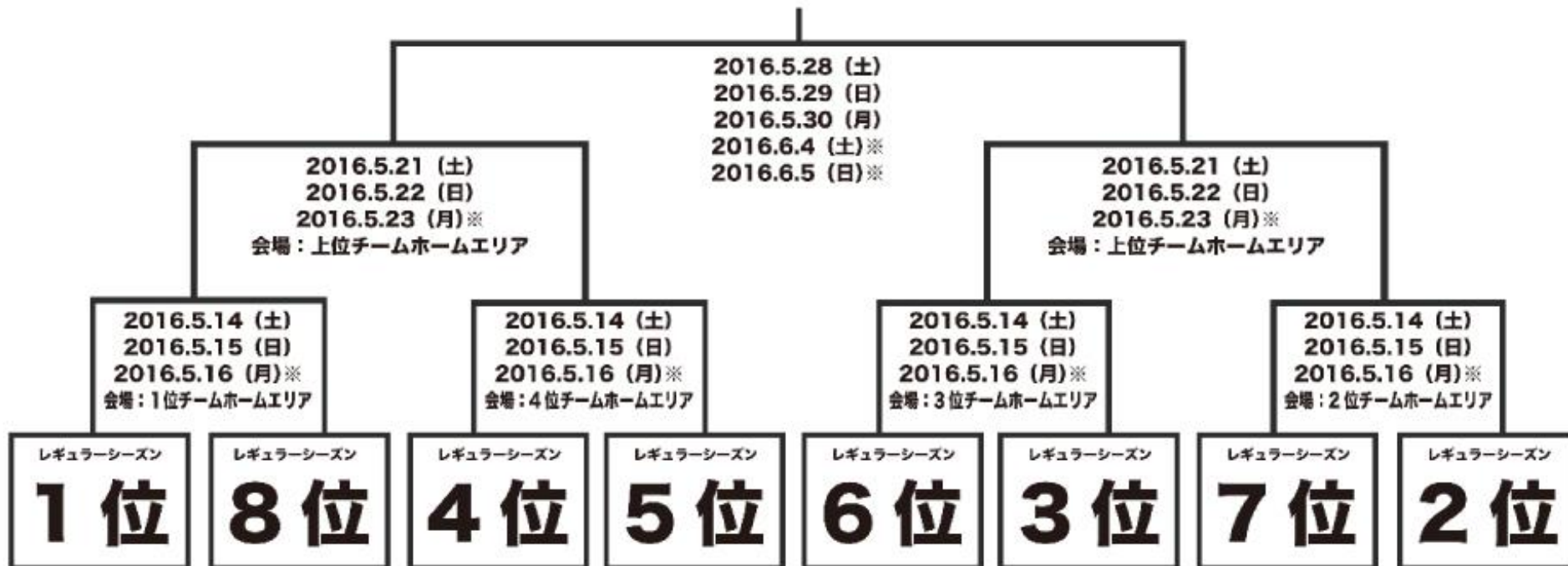
2月14日時点

順位	チーム	勝	負	勝率	差
1	トヨタ自動車アルバルク東京	28	4	.875	0.0
2	リンク栃木ブレックス	27	6	.818	1.5
3	アイシンシーホース三河	23	9	.719	3.5
4	東芝ブレイブサンダース神奈川	22	11	.667	1.5
5	日立サンロッカーズ東京	22	11	.667	0.0
6	レバンガ北海道	15	19	.441	7.5
7	三菱電機ダイヤモンドドルフィンズ名古屋	13	18	.419	0.5
8	千葉ジェッツ	11	19	.367	1.5

プレーオフホーム開催に向けレギュラーシーズン2位以上を勝ち取る。

そして、ホームの応援を武器にファイナルまで勝ち進み6年ぶりの日本一奪取。

NBL CHAMPION



※試合結果により開催しない場合があります。ファイナルの日程は変更になる場合がございます。

2016年秋からのバスケットトップリーグ



<東地区>

リンク栃木 北海道 秋田
仙台 千葉 トヨタ東京

<中地区>

日立東京 東芝神奈川 横浜
新潟 富山 浜松

<西地区>

アイシン三河 三菱電機名古屋
滋賀 京都 大阪 琉球

目標・ビジョン

- 1. 新トップリーグ初年度（2016-2017シーズン）に平均入場者数3,200人**
 - ⇒2015-2016シーズンは現在2,727人
 - ⇒有料入場者のさらなる増加
- 2. 誰もが一度は来たいと思うエンターテインメントの定着化**
 - ⇒照明・音響・装飾のクオリティアップ
 - ⇒顧客目線での運営をさらに強化
- 3. より一層、地域に根ざしたチームへ**
 - ⇒行政との更なる連携強化
 - ⇒ブレックス・スマイルアクションを始めとした地域貢献活動の質の向上
- 4. 育成事業の強化により栃木県出身のブレックス選手・オリンピック選手を輩出**
 - ⇒ジュニアユース（中学生）を4月に創設
 - ⇒栃木県日光市出身の橋本晃佑選手を獲得
- 5. プラクティスアリーナ（専用練習場）の確保**

1.決算報告

2.今後の戦略と方針

3.お知らせ



2016年春

リンク栃木ブレックスジュニアユース 創設



リンク栃木ブレックスでは2016年秋から始まるBリーグのクラブライセンスに制定されたユースチームに関して、2016年4月より中学生男子を対象に栃木県バスケットボール協会と共同で「BREXジュニアユース」を創設いたします。

さらに、2017年以降に高校生を対象とした「BREXユース」の創設も計画しております。トップチームを頂点とする育成体制のピラミッドを構築することにより、トップ選手の輩出に向けて一貫した指導を行っていきます。



強く・愛されるモチベーションあふれるチームへ